

LEARN AND LEARN

寺田佳子のまなまな

ドラッカー研究者 井坂康志さんに聞く

生き方が変わる?! 運命の出会いに学ぶ方法

ドラッカーへのトビラを開く

半世紀前のベストセラー『断絶の時代』に衝撃を受けたモーレツ・サラリーマンから、ミリオンセラー『もしドラ（もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら）』に夢中になったイケケ女子高生まで、経営学者、ピーター・F・ドラッカーに魅せられ、勇気づかれ、新しい世界の扉を開いた人は実に幅広い。

今回の「まなまな」のお相手で、ドラッカー研究者として活躍する井坂康志さんも、そのひとりである。

“もし井坂さんがドラッカーを読んでいなかつたら”、どうなっていたのでしょう？

「きっと細胞の構造から、全く違って
いたでしょうね(笑)」

なんと！ ドラッカーを知る前と後、つまり『ドラッカー・ビフォーアフター』

は違う生き物になっちゃった！ そう思

うくらい衝撃的な変化だったというのである。

例えばビフォーの時代。経済学を学び、編集者の道を歩み始めた井坂さんにとってのドラッカーといえば、「なんだか得体が知れないけれど、どうせ、うまく儲ける方法を年配の経営者たちに指南する“経営の神様”なんだろうなあ」というものだった。

その井坂さんに、
「キミ、ドラッカーを読むといいよ」



interviewee

井坂康志(いさかやすし) 氏

ドラッカー研究者、編集者、翻訳家。ドラッカー学会理事・事務局長。1972年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科修了。文明とマネジメント研究所研究主幹、ものつくり大学特別客員教授、早稲田大学社会連携研究所招聘研究員など。著書に『ドラッカーパー入門 新版』(上田惇生氏と共に著、ダイヤモンド社)など。

出版社に勤務しながら、ドッカーリー研究を続ける井坂康志さん。ドッカーリー学会などの活動を通して、学びの輪を大きく広げている。

と薦めてくれたのが、日本経済研究センター会長で経済評論家として活躍していた金森久雄氏だった。

憧れのエコノミストからのアドバイスである。「得体が知れない」とか「オジサンが読む本」などと言ってはいら
れない。井坂さんは、さっそく『断絶の時代』『マネジメント』などの初期の作品を手に取った。

そして「おや?」と驚いた。
「世間で言われているドラッカー像
と、全然違うじゃないか!」

お金儲けの神様ではなかった?
「ええ、お金儲けよりも、どうやって社会を健康にするかというテーマに情熱を持っている人だと感じました。学者というより思想家という印象を持ちました」

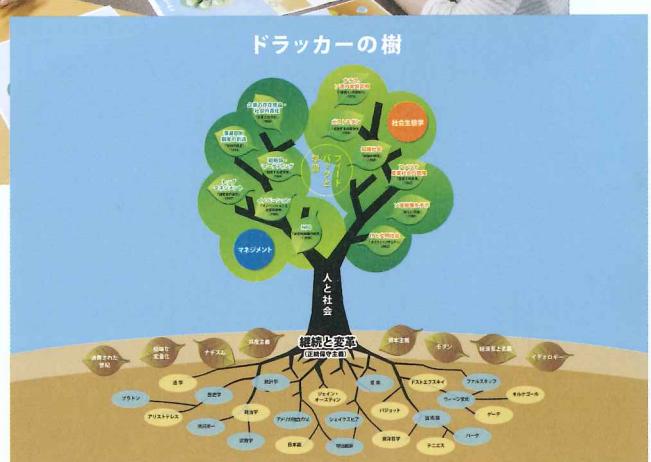
ドッカーノ言葉、人生から
自分の生き方が学べます
(井坂氏)

弱みではなく、
強みを発見して
活かせばいいのですね
(吉田氏)

こうして導かれたドラッカーへのトラを、さらに大きく開けてくれた人物 日本を代表する経営学者で、経団の幹部でもあった上田惇生氏だつ。上田氏は、ドラッカー本人から「私分身」「私自身より私のことが分かっている日本人」と称されたドラッカ研究の第一人者である。その人に、なと 80 時間にも及ぶ単独インタビューするチャンスを得たのである。井坂さんが 28 歳の時だった。

まあ、80時間も！
一流の研究者から一対一で教えを
受けるなんて、贅沢この上ない経験に
は違いないけれど、さすがにヘトヘト
になつたでしょう？

「好きなことは、いくらやっても疲れ
いものです(笑)。ちょうど親子ほど
2年が離れていましたが、上田氏は最
高の先生。本当に一流の人って、他人
を緊張させないものなんですね。ふ
と気がついたらドラッカーの世界に



どっぷり浸っていて、夢中になって学んでいたんです」

最晩年のドラッカーに会う

そして、この幸せな80時間の後、井坂さんは、「まるで細胞のつくりから変わったように、考え方方が全く変わった」というのである。

例えば会社について。

『ビフォーアフター』では、「会社はお金を儲ける場所。そのためには個人の権利を侵害することもあるところ」という認識を持っていた。

ところが、『アフター・ドラッカー』では、「会社は世の中に酸素を送り、生き生きと動かす心臓のような器官。一人

ひとりに働く自由と喜びを与え、世の中をより良くできるところ」になった。

ビフォーアフターで周りの景色は大きく変わり、世界はポジティブで多彩なところに変化したのだ。

それから4年、ドラッカーの研究を重ねていた井坂さんに、さらに奇跡的な出会いが待っていた。

2005年5月。95歳のドラッカーに、外国人編集者としては最後となる単独取材をしたのである。『現代社会最高の哲人』と称されたその人を米国カリフォルニア州クレアモントの自宅に訪ね、「情報技術が社会をどう変えるか」というテーマでインタビューした。とてつもないオーラに目が眩みそうになりながらのひとときに感じたのは、95歳にして衰えない、社会に対する純粋な好奇心

と、「学び続けること」への情熱だった。

ドラッカーの言葉に溢れていたのは、「人間は学びで創られる」という信念だった。「学ぶ装置」を持ち、学び続ける限り、人間は成長し続け、いつまでも新しい存在で在り続けることができる。だから、時代の変化に合わせて自分も学び続け、変化していくなければならない。「知の巨人」は、そう身をもって示していたのである。

人生100歳時代に不可欠の学び

一人ひとりが「学び」の仕組みと時間を、日常の中につくるべきだと?

「ええ。学ぶことは面白いことはこの世の中にはありません。だから、なるべく早く人生の中に『学び』を据え

ることを、強く勧めていたのです」

それはまた、ドラッカーが晩年よく語っていた、「第二の人生」を実現するための大変な仕掛けである。

今や、人生100歳時代。高度成長期のように会社だけで自分の人生を完結できるほど、人生はシンプルではなくなった。会社勤めを終えた後も、新たなコミュニティーの一員として生きていく必要が生まれている。40歳を過ぎたら、そのことを考えなければならぬ、とドラッカーは繰り返していた。

「ええ。かつては、男性管理職向けのマネジメントや経営論が注目されたのですが、最近は、女性ファンもずいぶん増えました(笑)」

「確かにそうですね。高度成長期ならば、会社人間として定年までまっすぐらというシンプルな人生設計、いわば

一次方程式でよかったのかも知れません。でも今は、二次方程式、三次方程式と複雑な方程式を解かなければ、生き生きと過ごすことができない時代です。40歳を過ぎたら、そのことを視野に入れて準備すべきというのです」

なるほど! 組織をマネジメントすることだけではなく、複雑な時代の個人の「生き方の指南役」としてもドラッカーは注目されるようになった、ということなんですね。

「ええ。かつては、男性管理職向けのマネジメントや経営論が注目されたのですが、最近は、女性ファンもずいぶん増えました(笑)」

実際、女性の感性でドラッカーを捉え、全く違う風景でドラッカーを語る講演会が増えて、今までにない華やいだ

活気が生まれている。それはきっと、女性の活躍を推進する時代に、「弱みではなく、あなたの強みを発見して、それを最大限に活かすことで、多様な生き方と、真に豊かな社会を実現しよう!」というドラッカーのメッセージが、女性たちを元気にするサプリメントの役割を果たしているからかもしれない。

モーレツ・サラリーマンからイケイケ女子高生まで、時代によって、人によつて、多様な魅力と新しい解釈を創造して生き続けるドラッカー。

「もし教育研修のインストラクショナルデザイナーがドラッカーの『マネジメント』をじっくり読み返したら、そのビフォーアフターは目を見張るように変わるものかもしれない」と、にやにやしながら本を開いた私である。

「学ぶ装置」を持ち、 学び続ければ成長は止まらない

寺田佳子氏

寺田佳子(てらだよしこ)氏
インストラクショナルデザイナー、ジェイ・キャスト常務執行役員、IDコンサルティング代表取締役、日本イーラーニングコンソーシアム理事、IT人材育成事業者協議会理事、熊本大学大学院教授システム学専攻講師、日本大学生産工学部非常勤講師。著書に『学ぶ気・やる気を育てる技術』(JMAM)など。<https://www.facebook.com/InstructionalDesignConsulting/>

“現代”という 複雑な方程式を解くには、 学びを日常に取り入れなくては

井坂康志氏